

人と地域と自然をつなぐ 魅力ある四国づくり

四国圏域生態系ネットワーク

イラストまたは組写真

2026年●月発行

人と自然と地域をつなぐ 魅力ある四国づくり
四国圏域生態系ネットワーク

四国圏域生態系ネットワーク推進協議会
編集協力 公益財団法人日本生態系協会

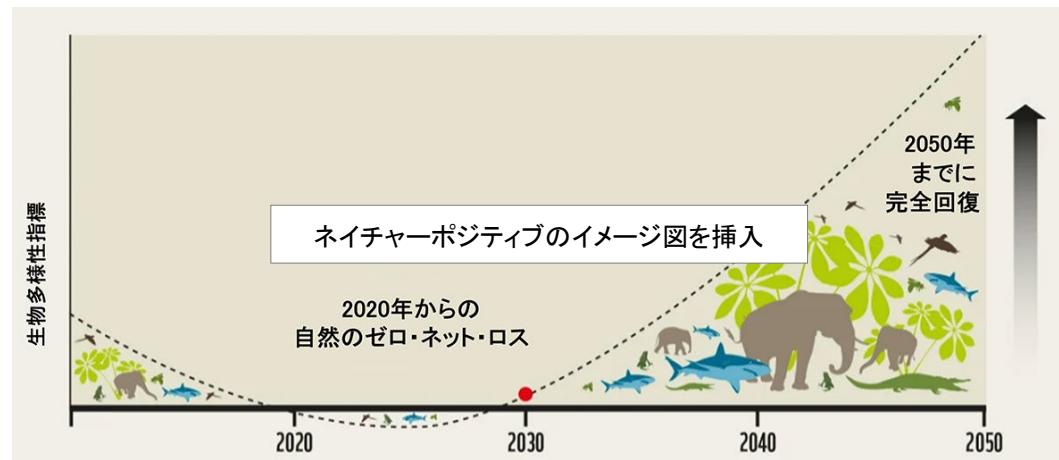
四国圏域生態系ネットワーク推進協議会

世界が目指すネイチャーポジティブ

私たちの暮らしは、食料や水の供給、気候の安定など、自然がもたらす様々な恵み（生態系サービス）に支えられています。また、人と自然とのかかわりから、様々な文化も生み出されてきました。生態系サービスは、私たちの生存と良質な生活、ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態）に欠かすことができません。

経済発展や技術開発により、私たちの生活は便利で豊かになりましたが、地球環境は限界に達しつつあると言われており、生態系サービスの源となる生物多様性（生きものたちの豊かな個性とつながり）は世界的に悪化傾向にあります。

私たちが、将来にわたって生態系サービスを得るためには、生物多様性を維持・回復していくことが重要です。生物多様性の危機に対して、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることを目指す国際的な目標「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に向け、世界が動き出しています。

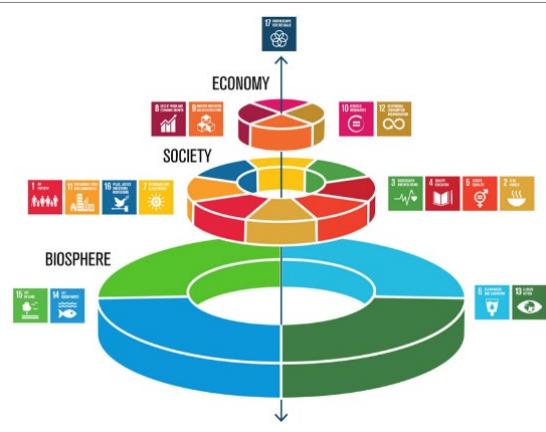


四国は、自然豊かな地域特性を有するとともに生物多様性に富んでいます。これらは、四国の人々が健康的な生活を送るための基盤として、さまざまな恩恵をもたらすものです。しかし、四国の多様かつ豊かで誇るべき自然は、人の諸活動の変化により失われつつあります。

そのため、四国の魅力の一つである美しい自然環境の保全・再生・創出を進めていく必要があります。

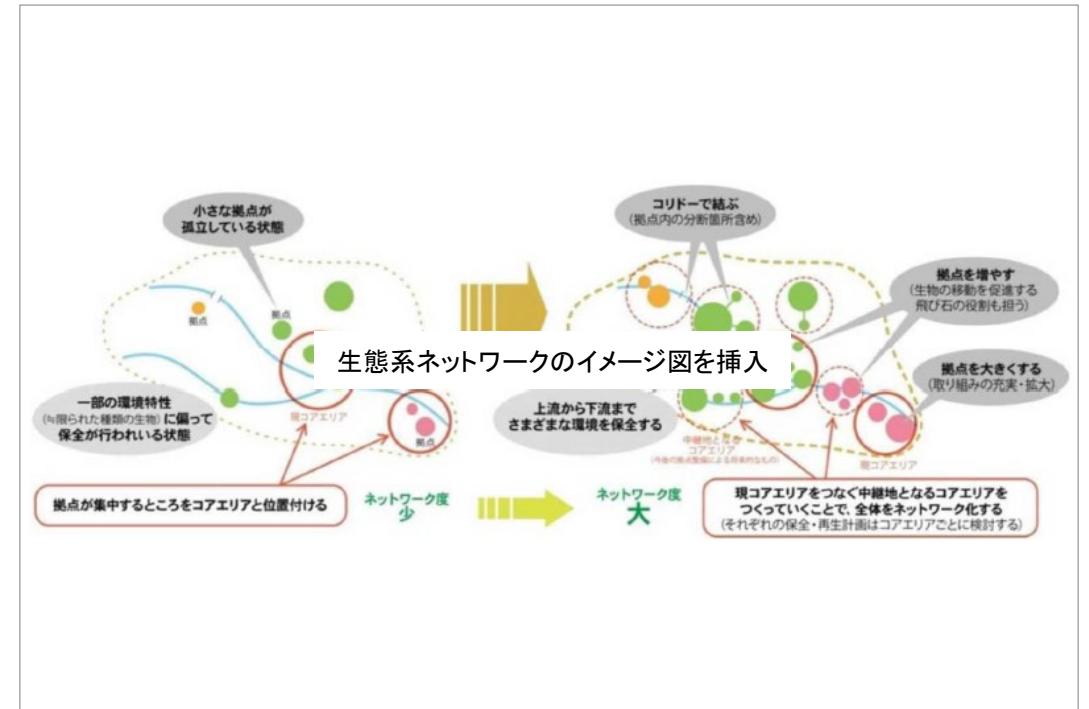
社会・経済を支える基盤

左の図は、SDGsの17の目標の関係を示しており、自然環境や生物多様性が、社会・経済の土台となっていることを表しています。自然環境や生物多様性の喪失は、深刻なビジネスリスクにもなります。企業が、ビジネスを持続可能（サステナブル）なものに切り替えていくとともに、自然環境や生物多様性の保全・回復に取り組むことが求められています。



自然を守り つなげる～生態系ネットワーク～

生態系ネットワークは、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有する地域を核として、それらを有機的につなぐ取組です。河川を基軸とした生態系ネットワークを形成することにより、流域の自然環境を豊かにするとともに、地域の経済や社会にも効果をもたらすことが期待されています。



自然環境

湿地や森林、ため池や田んぼなどを保全・再生することにより、私たちの暮らしを支える自然環境や野生生物を守ることが期待できます。

イメージ図を挿入

防災・減災

保全・再生された湿地や森林、ため池や田んぼなどが雨を受け止めることで、川へ流れ出す水の量を抑え、水位の急上昇を防ぎ、洪水の発生をおさえることが期待できます。

イメージ図を挿入

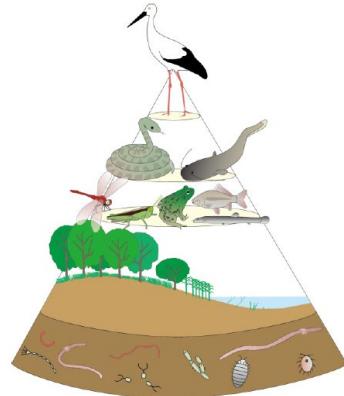
地域振興

自然の景観や野生生物を活かした観光など、自然環境が地域の魅力を高め、地域振興につながることを期待できます。また、自然豊かな環境を自然体験や環境学習で活用することで、子どもたちの身近な自然への関心や地域への愛着が高まることが期待できます。

イメージ図を挿入

四国へ飛来する コウノトリ・ツル類

生態系ネットワークに取り組む際には、生態系の広域的なつながり、流域内の生態系のつながりや地域性を示す生きものを指標種・シンボルとして選定することが効果的です。四国では、コウノトリ・ツル類（ナベヅル、マナヅル）を広域的な指標種・シンボルにしています。



生態ピラミッド

多様で豊かな生きものと自然環境のシンボル

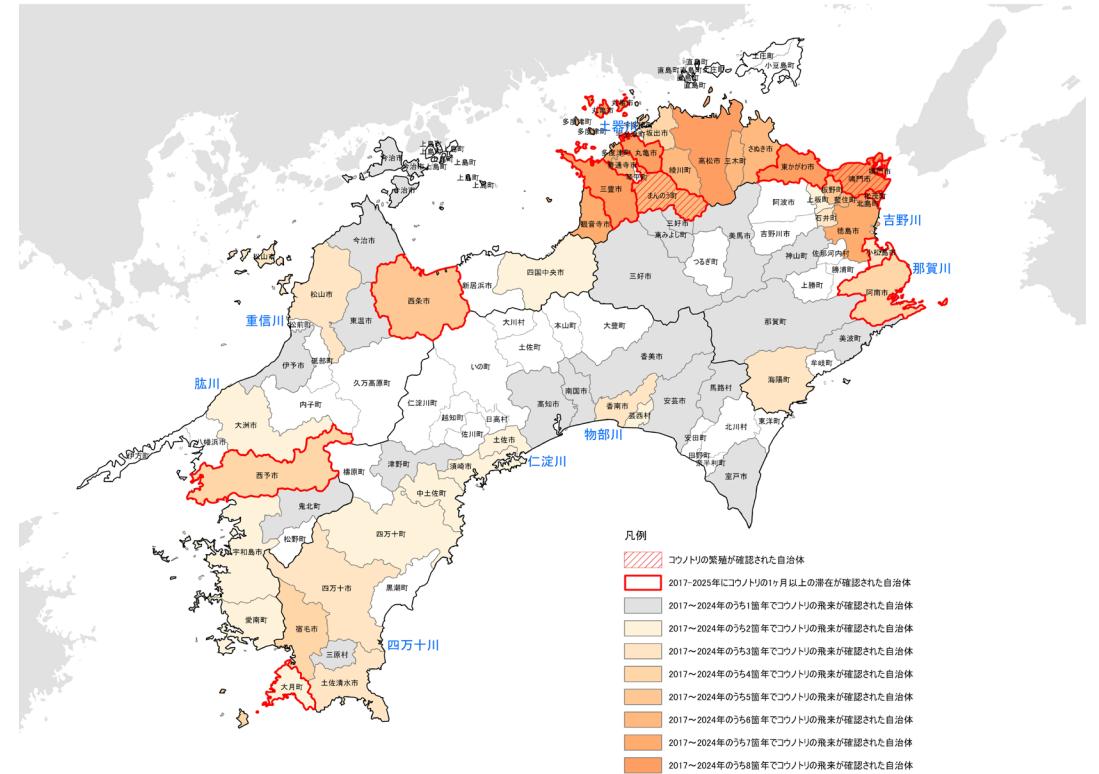
コウノトリやツル類が、地域に生息することは、食物となる多くの生きものが育まれている豊かな自然環境がある証です。

自然と共生する社会のシンボル

コウノトリ・ツル類がくらししているという物語を付加価値とする生産物の販売や観光の推進、地域の交流人口の増加といった社会や経済の活性化への効果も期待できます。

四国では、近年になって、自然環境の豊かさを示す存在であるコウノトリやツル類の飛来が多く見られるようになってきました。

コウノトリは、徳島県鳴門市、香川県まんのう町で野外繁殖に成功しており、さらなる繁殖・定着が望まれています。ツル類は、四国各地へ飛来があるものの、安定的な越冬地は少ない状態です。



コウノトリの飛来・滞在・繁殖が確認された自治体（2017～2024年）

「国土数値情報(行政区域データ)」（国土交通省）、「国土数値情報(河川ラインデータ)」（国土交通省）をもとに作成

コウノトリ

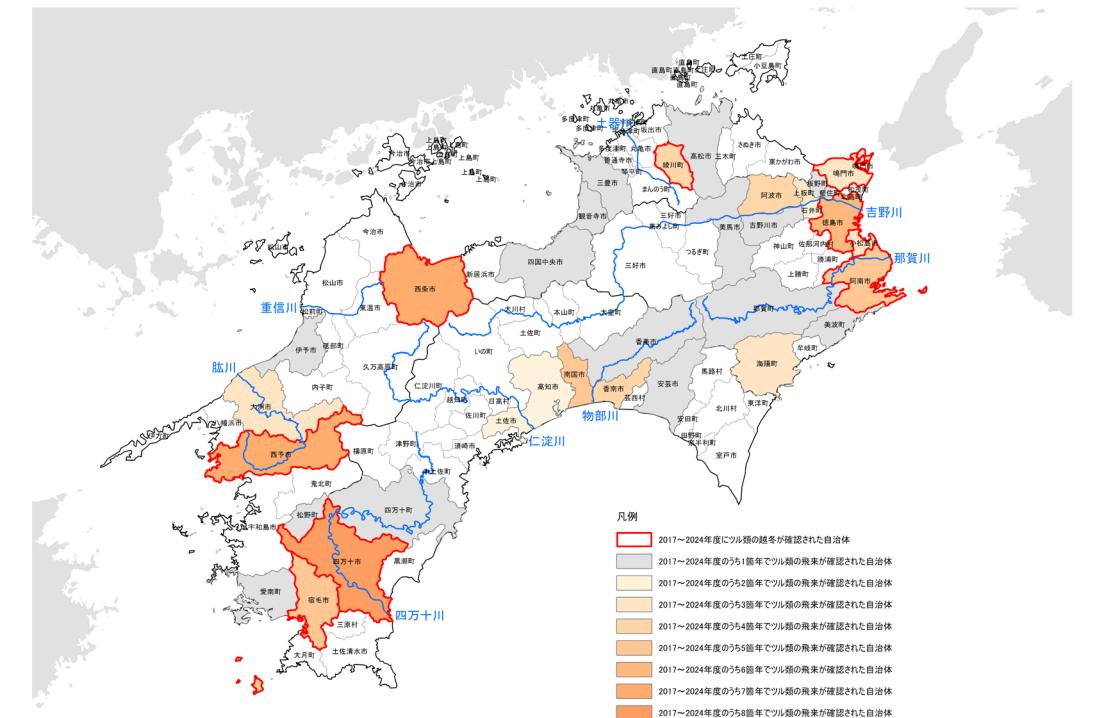
写真を挿入

- 日本の野生コウノトリは1971年に絶滅しましたが、人工飼育繁殖が行われ、2005年に兵庫県豊岡市で放鳥が開始されました。野外コウノトリは順調に増加して、2025年には500羽を超えています。
- コウノトリは、魚やカエル、昆虫などを食べ、1日に多くの食物を必要とします。コウノトリが定着・繁殖するためには、河川、田んぼ、ため池などに、年間を通して食物となる生物が豊富に存在する環境があることが重要となります。

ツル類（ナベヅル・マナヅル）

写真を挿入

- ナベヅル、マナヅルは渡り鳥で、10月～3月頃までを日本国内で過ごします。かつては日本国内の各地にナベヅル・マナヅルの越冬地がありましたが、現在は鹿児島県出水地方に一極集中しています。感染症等の発生が懸念され、ツル類の越冬地の分散に向けた取組が進められています。
- ナベヅル、マナヅルは、日中に田んぼで落穂や二番穂を食べ、夜間には浅水域（水深10～20cm程度）でねぐらを取ります。ねぐら環境に、人や犬が立ち入らないことや車のヘッドライトなど人工光の照射がないことも必要です。



ツル類の飛来・越冬が確認された自治体（2017～2024年度）

「国土数値情報(行政区域データ)」（国土交通省）、「国土数値情報(河川ラインデータ)」（国土交通省）をもとに作成

みんなで学び合い 取り組む

四国圏域生態系ネットワーク推進協議会を2018年2月に設立し、コウノトリ・ツル類をシンボルとした生態系ネットワークの形成による「魅力的な四国づくり」の実現に向けて、取組を進めています。

四国の各河川においても生態系ネットワーク形成の取組が行われており。徳島県流域（吉野川、那賀川含む）、四万十川流域、肱川流域で、それぞれ協議会やワーキングが設立・設置され、具体的取組が行われています。

四国圏域生態系ネットワーク推進協議会は、学識者、自治体、関連行政機関、関係団体等で構成されています。協議会を年1回開催して、各流域・地域での取組の情報共有を図るとともに、学び合いながら活動が行われています。



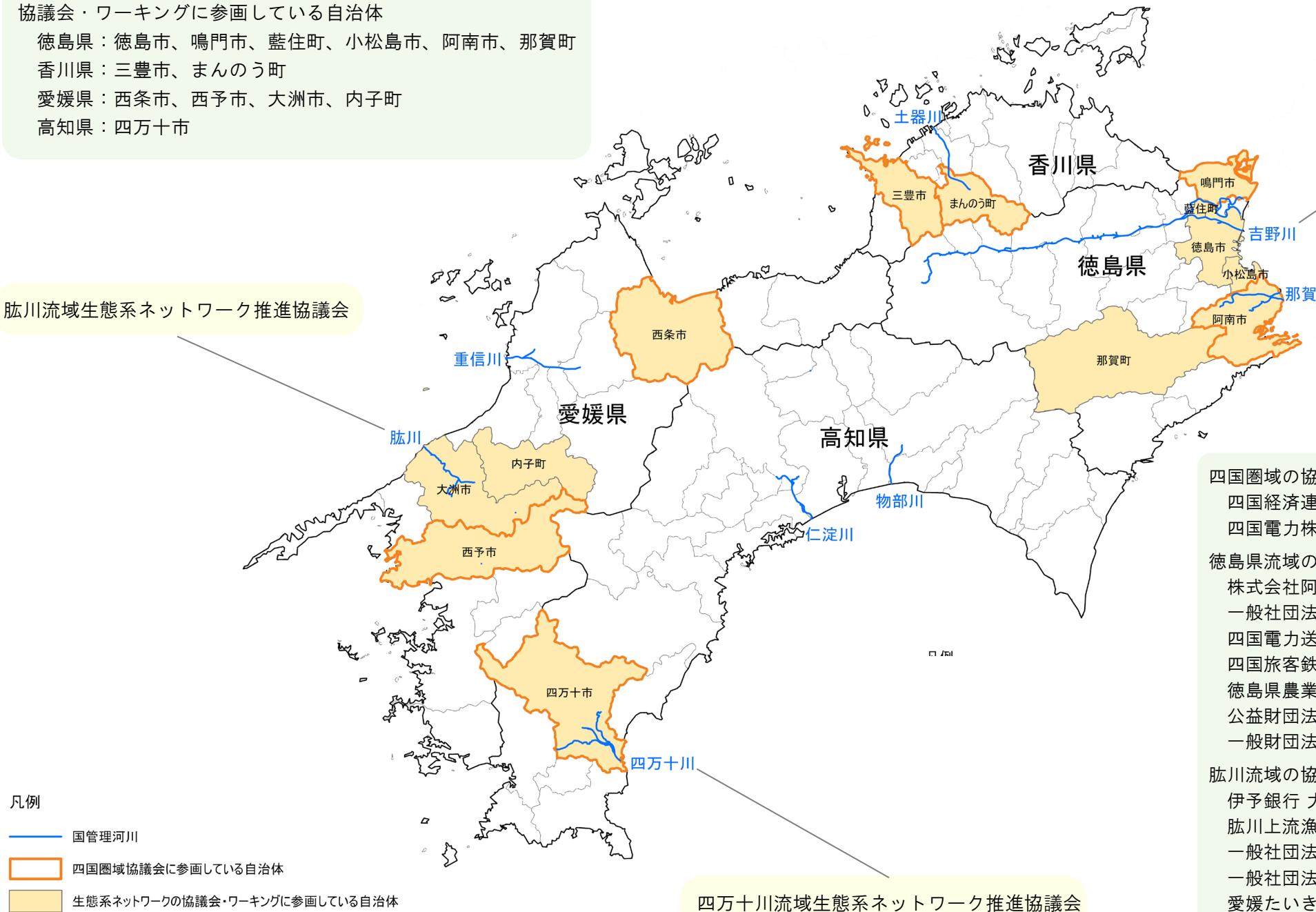
協議会・ワーキングに参加している自治体

- 徳島県：徳島市、鳴門市、藍住町、小松島市、阿南市、那賀町
- 香川県：三豊市、まんのう町
- 愛媛県：西条市、西予市、大洲市、内子町
- 高知県：四万十市

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

肱川流域生態系ネットワーク推進協議会

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会



- 四国圏域の協議会に参加している企業等
 四国経済連合会、四国ツーリズム創造機構、
 四国電力株式会社、四国旅客鉄道株式会社、
- 徳島県流域の協議会に参加している企業等
 株式会社阿波銀行、株式会社徳島大正銀行、
 一般社団法人イーストとくしま観光推進機構、
 四国電力送配電株式会社、四国放送株式会社、
 四国旅客鉄道株式会社、一般財団法人徳島県観光協会、
 徳島県農業協同組合中央会、一般社団法人徳島新聞社、
 公益財団法人とくしま産業振興機構、
 一般財団法人日垂ふるさと振興財団
- 肱川流域の協議会に参加している企業等
 伊予銀行 大洲支店、肱川漁業協同組合、
 肱川上流漁業協同組合、大洲市観光協会、
 一般社団法人西予市観光物産協会、
 一般社団法人内子町観光協会、
 愛媛たいき農業協同組合、東宇和農業協同組合、
 えひめ中央農業協同組合、大洲市森林組合、
 西予市森林組合、内子町森林組合

コウノトリ・ツル類のくらす環境を守り育む

四国の各地で、市民団体、企業、行政などの連携により、コウノトリ・ツル類がくらす環境を守り育む取組が行われています。

川の湿地の再生

吉野川流域や四万十川流域で、国土交通省による自然再生事業により、川の中に湿地がつくられています。



吉野川流域：旧吉野川 津慈地区

徳島河川国道事務所により、流下能力を確保しつつ、コウノトリの食べ物となる生きものがくらす湿地環境の整備が進められています。2025年に、試験掘削した箇所、コウノトリの飛来が確認されました。



四万十川流域：中筋川 中山地区

中村河川国道事務所により、ツル類がねぐらとして利用できるように、水深が浅く、人工の光が入らない環境が整備されています。

田んぼの再生・活用

川の周りの田んぼで、コウノトリの採食環境やツル類のねぐら環境が創出されています。



吉野川流域：鳴門市 大麻地区など

コウノトリが採食場所として利用できるように、認定NPO法人とくしまコウノトリ基金により、耕作放棄地を活用して、水面の開けた環境の創出、維持管理が行われています。



四万十川流域：四万十市 江ノ村地区など

ツル類がねぐらとして利用できるように、四万十つるの里づくりの会と地域の農業者などの協力により、冬期に田んぼへ水を張る取組が行われています。

人工巣塔の設置

徳島県鳴門市、香川県まんのう町では、コウノトリが電柱に巣をつくったため、人工巣塔化する工事が行われました。また、コウノトリの営巣のための人工巣塔が、徳島県鳴門市、香川県三豊市、愛媛県西予市などで設置されています。



土器川流域：まんのう町 琴南地区

コウノトリが電柱上に営巣したため、電力会社や電話会社と協議し、町が電柱を買い取り、人工巣塔化するための工事が実施されました。

見守り活動・マナーの啓発

コウノトリやツル類は、人や犬、車が近づきすぎると、驚いて飛び去ってしまいます。そのため、コウノトリやツル類が安心してくらすように、観察マナーを啓発するための看板の設置や地域住民が主体となった見守り活動、営巣地やねぐらへの立ち入り制限が行われています。

見守り活動の写真挿入

土器川流域：まんのう町 琴南地区

2024年5月に地域住民や日本野鳥の会香川県支部を中心に組織された「まんのう町コウノトリを守る会」が発足し、見守り活動や啓発活動が取り組まれています。



肱川流域：西予市 宇和地区

西予市により、ツル類の主な採食場となるエリアがツル渡来重点エリアに設定されています。ツル類の渡来時期は、農作業等を除いて、なるべく通行しないように呼び掛けています。

四国において、コウノトリは繁殖箇所、繁殖数を増やすこと、ツル類は安定的な越冬地、越冬数を増やすことが望まれています。

コウノトリやツル類のくらす環境を守り育むためには、継続的な維持管理が必要ですが、人手や資金が不足しています。市民団体、企業、行政などがさらなる連携を図っていくことが重要です。

自然環境を活かして地域の魅力を高める

四国の各地で、市民団体、企業、行政などの連携により、コウノトリ・ツル類がくらす環境を活かした地域づくりが進められています。

農産物、加工品等のブランド化

コウノトリが飛来、繁殖していることを地域の魅力の一つとし、農産物や加工品をブランド化する取組が行われています。



「コウノトリおもてなし」ロゴマーク

吉野川流域：鳴門市

鳴門市により、市内で農薬や化学肥料の使用を減らして収穫される農産物や加工品を「鳴門市コウノトリブランド」として認証する取組が行われています。

関連商品の開発

地域の事業者や教育機関等と連携して、コウノトリに関連する商品を開発する取組が行われています。



吉野川流域：鳴門市

四国大学短期大学部人間健康科食物栄養専攻の学生とNPO法人れんこん研究会により「コウノトリおもてなしれんこん」を使用したカレーと菓膳粥が共同開発されています。

観光での活用

コウノトリやツル類がくらす環境を楽しむ観光プログラムの開発、提供が行われています。



吉野川流域：鳴門市

コウノトリの生息域を流れる大谷川において、コウノトリや大谷川の歴史やコウノトリについての解説を受けながら、カヌーで下るツアーが催行されています。

環境学習

保全・再生された湿地をフィールドとして、地域の子どもたちの自然体験や環境学習が行われています。



四万十川流域：四万十市

四万十つるの里づくりの会と中村河川国道事務所により、四万十市内の児童・生徒を対象として、「ツルの自然体験学習会」が継続して実施されています。

地域間の交流

コウノトリ、ツル類の保護に取り組む地域や学校の間で、交流が行われています。



鳴門市と栃木県小山市

鳴門市生まれのコウノトリが渡良瀬遊水地で繁殖したことをきっかけに、鳴門市と小山市の小学校により、オンラインの交流授業が行われています。

普及啓発

生態系ネットワーク形成に関する取組を地域内外へ情報発信するために、施設等での展示が行われています。



高知県立のいち動物公園

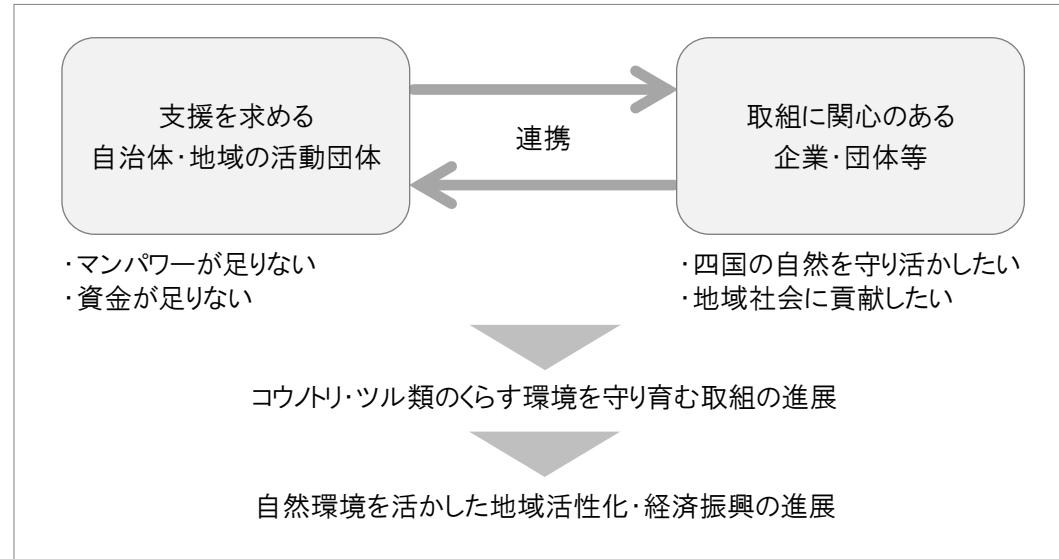
高知県に飛来するツル類や四万十川流域での生態系ネットワーク形成の取組を紹介する企画展が実施されています。

四国において、コウノトリ・ツル類を活かした農業や観光業、環境教育、地域間の交流等を進展させることが望まれています。

コウノトリやツル類を活用した農産物や加工品、観光商品などを生産、流通、販売していくためのノウハウが不足しています。市民団体、企業、行政などがさらなる連携を図っていくことが重要です。

今後の取組のさらなる発展に向けて

生態系ネットワークの形成による「魅力的な四国づくり」の実現には、多様な主体の実践、連携・協働が不可欠です。今後の取組のさらなる発展に向けて、自治体や地域の活動団体と、企業が連携を深めていくことにより、効果的なものになります。



企業が、自治体や地域の活動団体と連携し、生態系ネットワーク形成に取り組むことの利点として、企業のイメージの向上、消費者・投資家へのアピール、地域との関係強化、従業員の満足度の向上などがあげられます。

企業のイメージの向上

企業のイメージが向上し、新たな顧客の獲得につながる。

消費者・投資家へのアピール

社会的責任を重視する消費者や投資家の要望に応えることができる。

地域との関係強化

地域の活動に参加することにより、地域住民との関係をより良好に、強化できる。

従業員の満足度の向上

従業員の意識や満足度の向上、人材の確保につながる。

イメージ図を挿入

企業と自治体・地域の活動団体の連携にあたって、管理作業への参加、物品・資金・技術・ノウハウの提供、普及啓発・情報発信の協力等が支援策としてあげられます。

管理作業への参加

自治体、地域の活動団体が、湿地等を維持管理するための作業を行う際に、企業の従業員やその家族等が参加して支援します。

イメージ図を挿入

物品の提供

自治体、地域の活動団体が、湿地等の維持管理やイベントを行う際に、企業から資材や道具を提供して支援します。

イメージ図を挿入

資金の提供

自治体、地域の活動団体の取組に対して、企業が協賛や寄付などにより資金を提供することで支援します。企業版ふるさと納税を活用する方法もあります。

イメージ図を挿入

技術やノウハウの提供

自治体、地域の活動団体の取組に対して、企業が持つ技術やノウハウを提供することで支援します。

イメージ図を挿入

関連商品の活用

自治体、地域の活動団体が開発した農産物加工品や観光プログラムを活用することで支援します。

イメージ図を挿入

普及啓発・情報発信の協力

自治体、地域の活動団体の取組の認知度を高めるために、企業が普及啓発・情報発信に協力することで支援します。

イメージ図を挿入

今後の取組のさらなる発展に向けて

企業と地域の活動団体の連携事例

徳島県鳴門市に所在するアオアヲナルリゾートが、認定NPO法人とくしまコウノトリ基金と連携して、取組を行っています。



SDGs コウノトリ応援 宿泊プラン

コウノトリが舞う美しい鳴門を守る環境保全に貢献できる宿泊プランが発売されています。このプランが利用されると、1泊一人100円、同時にホテルから200円の計300円が、とくしまコウノトリ基金に寄付されることになっています。



寄付付き自動販売機の設置

ホテル内に寄付付き自動販売機が、2台設置されています。売り上げの一部が、とくしまコウノトリ基金に寄付されることになっています。



コウノトリれんこん堀り体験の開催

ホテルの宿泊者を対象に、「コウノトリれんこん堀り体験」が開催されています。

イメージ写真orイラスト挿入

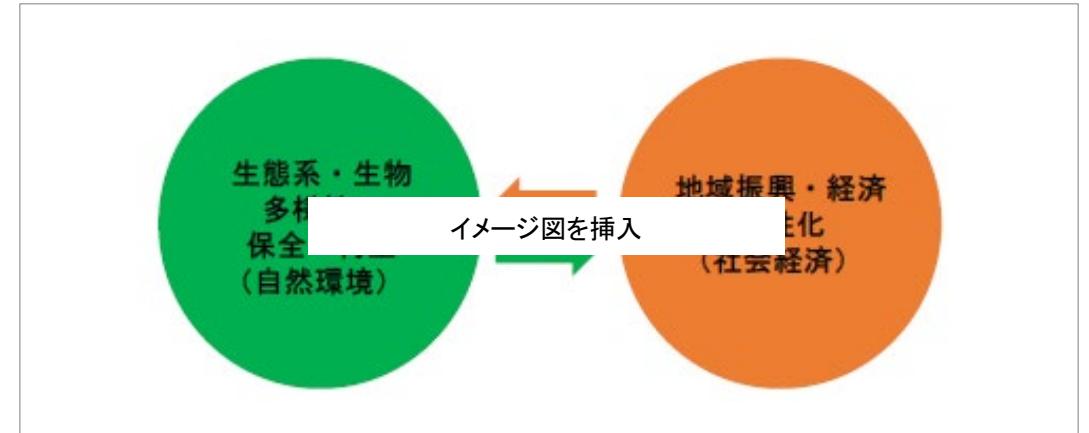
レストランでのお米の提供

宿泊者への朝食で、コウノトリのお米「朝と夕」（農薬と化学肥料の使用量を地域の慣行レベルに比べて5割減らして栽培）が提供されています。

認定NPO法人とくしまコウノトリ基金
のコメントを挿入予定

アオアヲナルリゾート
のコメントを挿入予定

生態系ネットワーク形成の取組は、自然環境とともに、地域振興・経済活性化を一体的に改善することを目的としています。自然環境を改善（保全・再生）する取組が、地域の抱える社会・経済面での問題解決につながり、よりよい結果を受けて、自然環境を改善する取組がさらに広がるという好循環の実現を目指しています。



四国の各地域で、自治体や地域の活動団体と、企業が連携を図ることで、コウノトリ・ツル類のくらす環境を守り育む取組と自然環境を活かした地域活性化・経済振興の取組をさらに進展させていくことが望まれています。

四国の自然環境と自然の恵みを次世代へつなぐために、企業の皆様のご参画をお待ちしております。自治体や地域の活動団体との連携を希望される方は、下記の四国圏域生態系ネットワーク推進協議会の事務局までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

四国地方整備局 河川部 河川計画課

TEL : ● - ● - ● MAIL : ●●@mlit.go.jp